



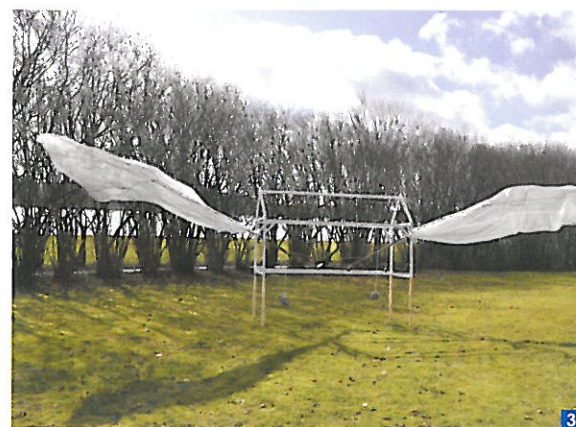
湿地とアートが織りなす美しさ 關渡国際自然オブジェフェスティバル

熱帯雨林が地球の肺なら、湿地は大地の腎臓です。淡水河と基隆河（いずれも河川）が交わる場所にある關渡自然公園は今年で開園10周年を迎え、この浄土のような土地で育まれてきた自然生態の美しさと種の変遷の奥深さが絶えることのないように、私たちは情熱を持って湿地の保全に努めています。今年9月に開催される關渡国際自然装置藝術季(關渡国際自然オブジェフェスティバル)では「關渡十年、宝を心に記す」をテーマに国内外の6人のアーティストを招いて、この自然湿地で作品をイメージしてもらい、公園内にあるものを使って、公園の自然の景色を取り入れた創作活動を行ってもらいます。完成したインタラクティブな大型アートオブジェは触ったりできるほか、その創作を通して生物が暮らせる生態環境も提供しています。

では6人のアーティストの作品を紹介しましょう。フィリピンのロジャー・ティボン(Roger Tibon)が手がけた円形の建築オブジェ「培植回憶」(メモリー)は時間の流れと植物の自然な成長にともなって、10本の柱に絡まった緑のツルが上へと伸びていき、緑あふれる丸い屋根になるという作品で、未来の無限の生命力を表現しています。日本のウエダリクオは東日本大震災に鑑みて、人間と大自然の持ちつ持たれつの関係に思いをめぐらし、「森羅万象」を創作しました。2本の枝を木のラックで支え、その枝の先にはペン、もう一方の先には紙を取り付け、風が吹くのを静かに待っていると、紙が風にたなびいて独特の線を描くという作品で、アートと大自然を維持するにはこの上ない根気と時間が必要だと訴えています。



1. 關渡国際自然オブジェフェスティバルでは国内外のアーティストを招き、公園内にあるものを使って、公園の自然の景色を取り入れた創作活動を行ってもらう。
2. 台湾のアーティスト鄭中和、呂嘉萍の「展・望」。竹編みで空を飛ぶ鳥を創り、ツタ植物をその竹に絡ませ、羽根になるという作品で、新たな服をまとっている。



台湾のアーティスト夫婦、鄭中和と呂嘉萍が手がけたオブジェ「展・望」(プロスペクト)は竹編みで空を飛ぶ鳥を創り、ツタ植物をその竹に絡ませ、それが日を重ねるごとに成長していくことで翼の部分の羽根が増えていくようになるという作品で、大自然の生命力で作品が新たな服をまとうようになっています。同じく竹を材料にした「與關渡對話」(關渡との対話)はアメリカのハーブ・パーカー(Herb Parker)の作品で、円錐の建築オブジェの中に入ると、お互いに見えないのに音でコミュニケーションを取ったり、瞑想したりできるという自然空間を創りだしています。韓国のアーティスト、バク・ボンギが手がけたオブジェ「呼吸」には窓があり、未来の人類と自然環境がお互いに助け合いながら調和を保っている姿を思い描いたファンタジーな展望台になっています。

オブジェの展示のほか、9月24日には出展アーティストが創作過程や体験談を語る自然アート座談会、10月1日にはエコマーケット、音楽会などがある自然アート開幕カーニバルと、アーティストが誠意を込めて企画したイベントが目白押しで、自らの手で自然アートの美しさに触れられます。



毎年關渡自然公園に戻ってくる渡り鳥がもたらすサプライズのように、このめったにない、そして貴重な一大イベントでは時間、風、雨、動物、植物、そして自然アートをこよなく愛するあなたが作品の一部になります。さあ、いっしょに大地の懷に抱かれ、自然の世界にある美の力と深く触れ合しましょう。

3. 日本のウエダリクオの「森羅万象」は自然の力を利用した創作。
4. 自然アート開幕カーニバルではアーティストが誠心こめて企画したDIYイベントが盛りだくさん。自らの手で自然アートの美しさに触れられる。
5. フィリピンのロジャー・ティボンの作品「培植回憶」のスケッチ。緑のツルが上へと伸びていき、緑あふれる丸い屋根になるという作品で、無限の生命力を表現。

関/連/情/報

關渡国際自然オブジェフェスティバル

9月15日~30日 国内外のアーティストによる創作期間

9月24日 自然アート座談会

10月1日 自然アート開幕カーニバル

10月1日~2011年2月29日 自然アートオブジェ展

会場：關渡自然公園

住所：台北市關渡路55号

電話：(02)2858-7417

<http://www.gd-park.org.tw>

アクセス：

【MRT】淡水線關渡駅下車。1番出口を出て大南客運の紅35番、または小23番のバスに乗り換え「關渡自然公園」下車。あるいは駅から徒歩10数分。

【バス】302番のバスに乗り「關渡國中」下車。中学の塀沿いを歩いて徒歩約3分。